

熱烈歓迎！

大牟田・荒尾地区与論会 与論島観光使節訪問団御一行様 与論島来島



▲与論空港に降り立った訪問団の皆さん

ウセー ウセー
「馬鹿ラバ馬鹿リ、
フナ フナ
熟シュラバ熟シ、
フナ ダー マイ アブシマクラ
熟シ田ヌ米ヤ哇枕」

馬鹿にするなら馬鹿にせよ、使い（いじめ）熟すなら使い塾せ。徹底して塾された田んぼにできた米は、やがて哇枕するぐらいに実りが豊かである。

* * * * *

この精神的バックボーンがあつてあればこそ、これまで述べてきた口之津での衣・食・住の生活状況の中で、周囲からは「ヨーロン、ヨーロン」と呼ばれ馬鹿にされながら、会社の厳しい監視の下とはいえ、ひどいときは三日三晩連続という厳しい肉体労働に耐えることができたのである。肉体的にも精神的にも、人間としての限界状況の中で生きぬいてきたこの口之津移住第一陣の人々の貴重な生きざまを、我々与論民俗の尊い文化遺産として、いついつまでも語り伝え、時代や仕事内容は違っても、それぞれの生き方の上に共体験として生かしていきたいものである。（与論町史より抜粋）

6月20日から22日の3日間、福岡市大牟田・荒尾地区与論会の方を中心とした91名が、観光使節訪問団を結成し与論島を訪れました。今回の訪問には、大牟田・荒尾与論会の方のみならず、与論島への観光交流につなげようと大牟田市民の方も多くご参加いただきました。

このような観光交流が実現したのは、与論島から口之津へそして大牟田へ再移住をしてから百年が経った今、不当な労働条件と差別など厳しい環境の中で、三池炭鉱を支えてきた与論島の人たちの働きが、大きく認められてきたという証といえるでしょう。

翌日は、サザンクロスセンターやグラスボートなどそれぞれに島内散策をする中、与論高校の運動会に足を運んだ御一行は、入場行進や応援合戦に真剣に取り組む高校生の様子に大変感銘を受けていました。大牟田・荒尾地区与論会観光使節訪問団の皆様、今回の与論島へのご訪問ありがとうございました。またいつか、与論島でお会いしましょう。